

野菜畑作生産情報 第5号（要約版）

平成30年8月20日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

◎大豆の生育はほぼ平年並。ほ場の排水対策を徹底しよう。
◎ながいも、ねぎ等の根菜類・葉菜類の生育は概ね順調。トマトでは、
着果量が少なめ。
◎品目やほ場に応じて病害虫防除と排水対策を徹底しましょう！

○大豆

- 1 生育は、ほぼ平年並となっている。
- 2 マメシンクイガや紫斑病の適期防除を徹底する。
- 3 台風や大雨に備え、明きょを手直しして排水溝へ接続するなどの対策を徹底する。

○小麦（は種の準備）

- 1 適期（9月15日～25日）には種できるようほ場を準備する。
- 2 ほ場の団地化を図り、明きょや弾丸暗きょなどで十分な排水対策を行う。
- 3 紅色雪腐病の被害を予防するため、種子消毒を行う。

○ながいも

- 1 生育は、植付時期等により差が見られるものの、おおむね順調である。
- 2 葉渋病、炭疽病など病害の防除を徹底するとともに、ナガイモコガ、アブラムシ類などの害虫の早期発見・早期防除に努める。
- 3 台風や大雨に備え、ネットや支柱の補強、降雨後の停滞水の排水対策を徹底する。
また、植溝が陥没したときは速やかに埋め戻す。

○にんにく

- 1 病害虫が発生していないほ場を選んで作付ける。
- 2 堆きゅう肥及び土壌改良資材の施用量は土壌診断結果に基づいて決め、必要以上に投入しない。
- 3 病害虫に汚染されていない種子を確保し、種子消毒して使用する。
- 4 種球の分割・調整はできるだけ植付け直前に行う。

○夏だいこん

- 1 出芽良好で、その後の生育も順調である。
- 2 軟腐病、キスジノミハムシの防除を徹底するとともに、コナガ、アオムシ等の害虫の早期発見・早期防除に努める。

○秋にんじん

- 1 地上部、地下部とも平年を上回り、生育は順調である。
- 2 黒葉枯病やヨトウムシなどの早期発見・早期防除に努める。

○ごぼう

- 1 生育は、地上部、地下部とも平年よりやや下回っている。
- 2 黒斑細菌病、黒条病、アブラムシ類等の発生に注意し、防除を徹底する。

○夏秋トマト

- 1 4月下旬定植では7段果房、5月中旬定植では4段果房の収穫期で、落花や灰色かび病の影響により着果数は平年より少なめとなっている。
- 2 肩換気などにより適正な温度管理に努める。また、十分なかん水、適切な肥培管理により草勢の維持に努める。
- 3 9月以降は裂果の発生が多くなるので、土壌水分が極端に変化しないようにする。
- 4 灰色かび病、葉かび病、アザミウマ類の防除を徹底するとともに、タバコガ類、コナジラミ類の早期発見・早期防除に努める。

○ねぎ

- 1 生育は、草丈、茎径とも平年を上回っており、順調である。
- 2 最終培土は、収穫の30日前頃に行い、葉の分岐部まで丁寧に土を寄せ、軟白長30cm以上を確保する。
- 3 べと病、軟腐病、さび病、黒斑病、アザミウマ類など病害虫の防除を徹底する。

~~~~~  
◎ほ場を見回るなど農作物の盗難防止に努めましょう。  
~~~~~

◎決め手は土づくり！ 日本一健康な土づくり運動展開中！
~~~~~

◎農薬の使用に当たって、  
農薬は適正に使用しましょう。  
農薬の飛散を防止しましょう。  
農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てないようにしましょう。  
クロルピクリン剤など土壌くん蒸剤を使用する際は、必ずポリエチレンフィルム等(厚さ0.03mm以上または難透過性の資材)で被覆してください。  
農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認してください。  
農薬情報([http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n\\_info/](http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/))  
農薬登録情報提供システム  
【詳細検索】(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp301.jsp>)  
【作物名検索】(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp101.jsp>)  
~~~~~

◎農作業中は熱中症に気をつけましょう。

- 1 日中の暑い時間帯は作業を避けるとともに休憩をこまめに取る！
 - 2 通気性の良い作業着や帽子を着用し、汗で失われる水分や塩分を十分に補給する！
- ~~~~~

◎農業保険（農業共済及び収入保険）への加入について～

- 1 農業共済
「農業共済」は、自然災害等により農作物・家畜・園芸施設に損害が生じた場合に共済金が支払われる制度です。
- 2 農業経営収入保険
平成31年から新たに始まる「農業経営収入保険」は、農業者が自ら生産した農産物の販売収入全体を対象とし、自然災害に加え、価格低下などにより収入が一定割合以上減少した場合に補填金が支払われる制度です。

加入には、青色申告が条件となっており、平成31年分の申請は、30年10月から11月となっています。
※詳しくは、地域の農業共済組合にお問い合わせください。



報道機関用提出資料	
担当課	農産園芸課 野菜・畑作物振興グループ
担当者	海老名 主幹
電話番号	直通 017-734-9485 内線 5077
報道監	農林水産部 石戸谷 農商工連携推進監 内線 4966